

## 行政視察報告

(会派 燦友会)

### <視察目的>

#### ・神奈川県横須賀市

安来市議会における議会改革の課題の一つである「予算委員会のあり方」を検討するため、予算決算常任委員会を設置しておられる横須賀市議会を訪ね、様々な取り組みについて調査・研究し、参考にするため。

#### ・茨城県龍ヶ崎市

より多くの市民の方に、市民活動に参加してもらうため始められた「まちづくりポイント制度」事業を行っておられる龍ヶ崎市を訪ね、様々な取り組みについて調査・研究し、参考にするため。

#### ・埼玉県秩父市

先進的な林業施策を展開しておられる秩父市を訪ね、様々な取り組みについて調査・研究し、参考にするため。

### <視察概要一覧>

| 視察月日         | 視察先      | 視察施設   | 視察内容                                   |
|--------------|----------|--------|--|
| 1月23日<br>(水) | 神奈川県横須賀市 | 横須賀市役所 | ・議会改革について<br>①予算決算常任委員会の取り組み状況<br>②その他 |
| 1月24日<br>(木) | 茨城県龍ヶ崎市  | 龍ヶ崎市役所 | ・まちづくりポイント制度について                       |
| 1月25日<br>(金) | 埼玉県秩父市   | 秩父市役所  | ・林業全般の取り組みについて                         |

### <視察概要報告>

#### 1. 神奈川県横須賀市

●対応部署： 横須賀市議会 事務局長  
" 議会事務局 2名

●説明概要：

#### ・予算決算常任委員会の取り組み状況について

従来の分割付託による審査方法では、修正等が行われた場合、修正の有無により各委員会での表決結果が異なり、同一議案内で賛否が異なる矛盾が生じたことから、これを解消するために予算決算常任委員会を設置されたとのこと。設置により予算審査

と決算審査を同一議員が行うことにより、総合的・一体的な審査ができ、チェック機能の強化にも繋がっていることなどの説明がありました。

#### ・その他

議会改革を継続的に取り組むための「議会制度検討会議」を設置していることや高校生を対象にした議会報告会についても説明がありました。

#### <考 察>

##### ○金山 満輝

横須賀市議会においては、従来の分割審査方法では各委員会での表決結果が異なる可能性がある等の矛盾が生じるため、予算決算常任委員会を平成 23 年 3 月に設置。予算審査と決算審査を同一議員で行うことにより、総合的・一体的な審査が可能となった。

予算決算常任委員会全体会は、本会議場で議長を除く全議員により分科会委員長報告、総括質疑、討論、採決とすすめられる。議会選出監査委員の立ち位置がはっきりとしていない。議長と同等に委員から除くべきか。個人的な見解としては、質疑をしない旨申し合わせも必要かなと感じた。

##### ○遠藤 孝

以前から安来市議会で予算委員会のあり方が課題となっているなか、大いに参考になった。横須賀市議会が導入している「予算決算常任委員会」では、決算を審査した議員全員が予算を審査することで、議員の資質向上やチェック機能の強化に繋がっていると思った。また各分科会の議論が分科会委員長報告で報告される方式は参考にすべきと考える。しかしながら横須賀市議会では分科会委員長報告は委員会をインターネット中継並びに録画放映しておられるため簡略に行っておられるが、仮に安来市議会でこの方式を導入するということになると更なる調査・研究が必要になると思う。



##### ○作野 幸憲

昨年 11 月の大阪府八尾市議会に続き安来市議会の「予算委員会のありかた」について、調査・研究するために先進的な取り組みをしておられる横須賀市議会を訪問しました。そのなかでも、予算決算常任委員会の設置によって、決算審査をした委員と同じ人

が予算を審査することによって、総合的・一体的な審査ができ、チェック機能の強化にも繋がっているとのこと。また分科会方式をとることによって、部門別常任委員会と同じ議員が担当の分科会に所属するため、専門性が活かされ議論を深めることもできると思った。八尾市議会とは違い、各分科会での議論が分科会委員長報告という形で全体会に報告されていることは大いに評価できました。八尾市議会と今回の横須賀市議会の視察を終え、安来市議会でも本格的に「予算決算常任委員会の設置」について、検討を試みる時期ではないかと強く思いました。

## 2. 茨城県龍ヶ崎市

●対応部署： 龍ヶ崎市議会事務局 次長  
龍ヶ崎市 市民生活部 コミュニティ推進課 課長ほか2名

●説明概要：

### ・まちづくりポイント制度について

龍ヶ崎市の「まちづくりポイント制度」は、より多くの市民の方に、地域や行政に対して関心や理解を深めていただくとともに、市民活動に参加するきっかけづくりとして平成26年1月にスタート。市が指定する市民活動（環境美化活動、各種講座・講演会など）に協力・参加するとポイントシールがもらえ、貼りとめると、ポイントシールの枚数に応じて市内公共施設の利用券等と交換できる。また、ポイントシールを市民団体へ寄付することで、自分が応援したい市民団体を資金面から支援することも可能な制度であることなど詳細な説明がありました。

### <考察>

○金山 満輝

茨城県龍ヶ崎市の総面積が78.55 km<sup>2</sup>。安来市の19%程度の面積で東京都心へのベッドタウンとして77,586人33,752世帯の方々が在住される。ポイントシールの交換状況等を見ると観光物産センターでのシール交換状況が1/3以上。またコミュニティバス回数券シール交換状況にも注視してみた。利用される公共施設等が龍ヶ崎市内に集約されているのだろうか。

安来市では道の駅・温泉施設と広い範囲に散在する。市民は生きがいや郷土愛を求め、応援する市民団体への寄付としてこのポイント制度を安来市へ活用すれば、資金難を抱える市民団体は喜ばれるのではないだろうか。

○遠藤 孝

「龍ヶ崎まちづくりポイント制度」は、小学生から高齢者まで幅広い年代で市民活動参加への楽しみや張り合いができる制度で、市が関わる活動（H30年度36活動）と市民団体が主催する活動（H30年度20活動）があり、対象活動の多さにも驚いた。またポイント交換メニューも豊富で、観光物産センターの買い物や温泉施設の入館券、コミュニ

ティバスの回数券など多数、ほかにも自分が応援したい市民団体への寄付ができるなど工夫が凝らされていた。「市民活動日本一」を目指し、官民が一緒になって取り組んでいるとても参考になる制度でした。



○作野 幸憲

平成 22 年度に公募市民と地元大学生、市職員からなる「総合計画策定市民会議」のなかから提案された「龍ヶ崎まちづくりポイント制度」。制度構築費（H25 約 87 万円）と毎年の運営費も（H29 約 142 万円）そうかかっておらず、費用対効果は大きいと思いました。またポイントシ

ール交付枚数、申請活動件数・団体数そしてポイントシール交換状況も年々伸びており、市民活動の活性化に貢献していると思いました。なによりまちづくりに意欲的だった若い人の発想からの生まれた制度のようで、そこに成功のポイントがあったように思えました。ぜひ安来市でも取り入れたい制度です。

### 3. 埼玉県秩父市

●対応部署： 秩父市議会事務局 主査  
秩父市 環境部 次長 兼 森づくり課長ほか 1 名

●説明概要：

#### ・林業全般の取り組みについて

最初に秩父市の森林・林業行政の市政での位置づけについて説明を受け、その後森づくり課の 7 つの基本事業①特定分収育林事業②市営林造林管理事業③林業振興活動支援事業④治山事業⑤森づくり事業⑥森林保全事業⑦木材活用推進事業について説明を受けました。特に市営林造林管理事業の森林資源情報活用事業（市営林の管理・運用において、3D レーザスキャナや森林地理情報システムといった ICT によって得られるデジタルデータの活用）は先進的な取り組みだった。

#### <考 察>

○金山 満輝

秩父市の森林・林業施策については、秩父市の森林率が埼玉県の約 40%を含めることにまず驚かされる。秩父市森づくり課の基本事業の市営林造林管理事業は、秩父や日

本の木の文化（日本の神社仏閣や文化財補修には 200 年生以上の大径木が欠かせない）を支える森林として「200 年生の森づくり」基本方針を策定している。

木材活用推進事業「生涯木育」の発想、循環型社会の構築、地域経済の発展を目指す取り組みには感心する。やはり木材には「やすらぎ」と「ぬくもり」がある。人の誕生（ウッドスタート）木のおもちゃ等に始まり、未成人の教育（ウッドライフ）木の机等、成人には木造住宅・薪ストーブ等、老人（ウッドエンド）には介護木製品、棺桶と木と共に成長する社会。森林も成長とともにCO<sup>2</sup>を吸収して高齢林でCO<sup>2</sup>を固定して木材として利用をされる。

秩父市は群馬県・長野県・山梨県・東京都に接してその 87%を山林が占める森や木から新たな魅力の発信が秩父市を元気にしていると感じた。



○遠藤 孝

市営林造林管理事業のなかの市営林を 3D レーザスキャナで管理する森林資源調査は、200 年木を日本の神社仏閣や文化財補修に檜皮葺や木材を提供することができる他にはない素晴らしい取り組みだった。この事業は、森を守るためにも需要に応えるためにも貢献できるもので感心した。

○作野 幸憲

「森から秩父を元気にする！」という市政の位置づけのもと、様々な取り組みをしておられる秩父市、まず豊富な事業を展開しておられることに驚きました。特に私が興味を持ったのが、「森林資源情報活用事業」。市営林の管理・運用において、3D レーザスキャナや森林 GIS といった ICT によって得られたデータを活用して、より効果的な立木販売を実現させるための取り組みで、森林・林業・木材産業を将来も支える特筆すべき事業だと思いました。また「ちちぶ木の駅プロジェクト」は、林業を生業にしていない人が関心を持ってもらうための事業で、山に置いたままの間伐材等を軽トラックなどで「木の駅」に出荷し、1 リューベ 4,000 円で引き取ってくれるもので、山はきれいになるし、自分にはご褒美が出る、そして地域に元気が出る取り組みでした。是非とも安来市に取り入れたいプロジェクトと思いました。

以上